

## 会議結果

◎ **審議会等名称**

かながわ高齢者保健福祉計画評価・推進委員会 第36回計画評価部会

◎ **開催日時**

令和5年2月1日（水曜日）14時～16時

◎ **開催場所**

オンライン会議システム「Zoom」を利用

◎ **出席者**

橋本 勉生【部会長】、黒木 淳【副部会長】、鶴山 芳子、川添 祐子、鳥居 貴子

◎ **会議経過**

**(事務局)**

- ・ ただ今から、かながわ高齢者保健福祉計画評価・推進等委員会の令和4年度第1回計画評価部会を開催いたします。
- ・ 会議に先立ちまして、高齢福祉課長の垣中から、ひとこと、ご挨拶申し上げます  
<高齢福祉課長あいさつ>

○ **部会の概要**

<事務局から部会の概要について説明>

○ **かながわ高齢者保健福祉計画 介護保険事業の実績**

**(橋本部会長)**

- ・ 新任の川添委員、鳥居委員、どうぞよろしく申し上げます。本日の議題は、2つ用意されています。あと、報告事項とあるのは後で情報提供という形で行われるということです。
- ・ まず、議題1「かながわ高齢者保健福祉計画（2021年度～2023年度）」介護保険事業の実績」ということで、事務局から説明をお願いします。

**(事務局)**

<事務局から資料1により説明>

**(橋本部会長)**

- ・ 今、説明がございましたが、ご質問、ご意見あればお伺いしたいと思います。

**(橋本部会長)**

- ・ 前年度と比較しているが、前年度は色々なものが落ち込んだ時期です。2020年3月から新型コロナウイルス感染症があって、2020年度自体はかなり実績が落ち込んでいる。だから、それと比べて実績が増えたというのは、少し慣れてきたのかなという感じが出てくるのかもしれないけれども、どう読んだらいいのか。よく、コロナ前と比べて、という比較をするけれども、そういう比較が出てきたらいいなと思っているのだけれども、前年度だとコロナが始まった年と比べて、ということだから、実績は上がるんだろうなと思って見えています。令和2年度のコロナ感染者数と比べると、令和3年度はずっと多いでしょうね。

- ・ それで、実績が上がっているというのは、それなりに感染症対策が進んでいるんだろうな、と見ましたけれども、皆さん、ご意見いかがでしょうか。自治体からの委員がお二人いらっしゃっていますけれども、何かそういう立場から見えることはありますか。

**(鳥居委員)**

- ・ 最近の状況を見ていますと、令和2年度は申請すら控える方が大変多かったという印象があります。そして、令和3年度の実績から令和4年度の頭くらいまでに関しましても、どうしてもコロナ感染者が出てしまうことによって、デイサービスを閉じないといけなとか、待機入所も、一時的に出る方入る方をなくして、様子を見ていることによる実績の落ち込みはあるとは思っています。
- ・ でも、その影響もあってか令和4年度の後半になってからすごく申請者が増えていきますので、サービスを利用することを控えていたところから、利用しようというのが実際には見られるような気がします。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。自治体の規模によってコロナのアウトブレイクがあったりすると、影響があったりなかったり、ブレが大きくなりますよね。大きい自治体だと一定の頻度で起こってくると、そのブレはそれほど大きくないかもしれないけど、全体の流れとしては鳥居委員おっしゃるようなことなんでしょうね。まだまだ正常状態には戻らないけれども、それに向けての動きは結構あるという感じでしょうか。なかなか評価自体は難しいなと思いますけれども、昨年の評価委員会だと思うのですが、ざっばく言い方けれども、色々あるけど結構、頑張っているよね、というのでそれが継続しているような感じがあって、大きい問題があるとそこを手当していかなければならないけれども、その検出ができるかどうかだと考えています。
- ・ 何かほか、ご意見があればお伺いしたいと思います、いかがでしょうか。

**(橋本部会長)**

- ・ 今の鳥居委員の発言を受けて、県全体で見て、何かあれば事務局にお話ししたいのですが。

**(事務局)**

- ・ 一つ気になったのが、老人保健施設の利用者が昨年度よりも落ち込んでいることにございまして、川添委員、鳥居委員の方で思い当たるものがあればお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

**(川添委員)**

- ・ 特に老人保健施設の利用者の落ち込みに関して、明確、直接的な要因として考えられるものは横浜市の中では分析ができていない状態です。ただ、施設でクラスターが発生したということも多々ありましたので、そういった中で前年度に比べて利用者の受入れがうまくいかなかったというのがあるのかなと思います。一方で、それは老人保健施設だけではなくて他の事業所も同じ要因はあると思いますので、コロナの影響については、今後の状況を見ていく必要があるのかなと思っています。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。他いかがでしょうか。

**(鳥居委員)**

- ・ 南足柄市だけではないのですが、最近の老人保健施設は強化型をとる施設が多くなっていて、入所期間が短くなっている傾向があります。その影響で、長い期間入所していれば満床になっていくと思うのですが、退所して家にきちんと戻すということもやっている中で、コロナの影響もあって満床にならないのかなということを感じています。南足柄市でもクラスターが発生して、一時期、入る方が少ないということはありませんでした。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。議題1についてはよろしいですかね。
- ・ それでは、議題2「かながわ高齢者保健福祉計画（2021年度～2023年度）」主要施策の評価について、事務局説明をお願いします。

○ **かながわ高齢者保健福祉計画の主要施策の評価**

**(橋本部長)**

- ・ それでは、議題2「かながわ高齢者保健福祉計画（2021年度～2023年度）」主要施策の評価について、事務局説明をお願いします。

**(事務局)**

<事務局から資料2-1、2-2、2-3により説明>

**(橋本部長)**

- ・ 2-1、2-2、2-3についてご意見あれば伺いたと思います。
- ・ 我々、部会の役割の一つとして、事務局が出した評価について、これはもう少し良くてもいいんじゃないかとか、これは甘いんじゃないかといった話ができればと思っています。

**(橋本部長)**

- ・ ひとつ、気になる点があるのですが、事務局、よろしいですか。
- ・ 資料の2-1の中柱の2高齢者の尊厳を支える取組みの推進ということで、虐待防止対策の推進が施策別の評価ではCとなっていますけれども、これを説明していただけますか。

**(事務局)**

- ・ 計画目標として、高齢者虐待防止研修の受講者数、開催数を掲げており、新型コロナウイルス感染症の影響により、実績が低調だったことからC評価としております。

**(橋本部長)**

- ・ 実際に高齢者への虐待件数がどう推移しているかと併せて考えるとどうでしょうか。

**(事務局)**

- ・ 12月に記者発表させていただいていますけれども、施設職員による虐待は令和3年度は令和2年度より若干増えて過去最高を更新しております。
- ・ 一方、今、手元に数字はないのですが、養護者虐待について、令和3年度は令和2年度より減った状況であったと記憶しています。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。確かに、施設職員が虐待をする話は報道で取り上げられたり、いろいろ調査したこともあって増えたのかもしれない。家の中の虐待はそれほど増えているわけではなさそうということでしょうかね。
- ・ そのほかのいくつかの項目について、いかがでしょうか。

**(橋本部長)**

- ・ ケアラーへの支援がC評価ですが、これも同じようにコロナの影響が理由でしょうか。
- ・ 総合評価(案)の文書だと「県内に連絡会議を設置し、2回開催した」とあるが、なぜC評価なのですか。

**(事務局)**

- ・ C評価となった理由は、家族介護支援事業の実施市町村が計画より少なかったことなどによるものです。

**(橋本部長)**

- ・ C評価となった理由が記載されていないが、どうでしょうか。周辺状況によってCとなったものについては、積極的に記載する意味があるかどうか。そのほかのC評価はどうでしょうか。
- ・ いきいきと暮らすしくみづくり 生涯学習・生涯スポーツの推進の活動・交流の場の提供がC評価ですが、同じようにコロナの影響ですね。それから、介護保険サービス等の適切な提供とその基盤づくり 人材の養成、確保と資質の向上の保健・医療・福祉の人材の資質の向上、これも研修ができなかったという話でしょうか。
- ・ 市町村が行う取組の支援施策及び目標値 自立支援・重度化防止の取組の支援のデータを活用した地域分析支援がCですが、事業本数が1つなのですかね。

**(事務局)**

- ・ 事業本数は1つでして、市町村職員を対象とした地域分析研修が、コロナの影響により地域別での開催を予定していたものが、全市町村を対象とした1回のみとなったためC評価としております。

**(橋本部長)**

- ・ 全市町村を対象にオンラインで研修を実施しているので、もっと高評価でもよいのではないのでしょうか。

**(事務局)**

- ・ 目標の9回は、全8圏域での実施に加え、全県での1回で考えていて、圏域別研修はコロナ関連業務との兼ね合いもあり、なかなか実施が難しかったというところです。

**(橋本部長)**

- ・ 全県で一定のプログラムが実施できたのなら、C評価にしなくてもいい気はしますが、どうですか。

**(事務局)**

- ・ 全県のものに関しては、分析手法等が研修内容で、圏域別は市町村ごとの課題を実際に話を伺いながら行うことを考えていました。

**(橋本部長)**

- ・ わかりました。それなりに意欲的に考えていて、全県は方法論とかそういう話で、圏域別はもっと突っ込んだ、個別の事情を加味しながらの分析をやりたかったけど、それができなかった、それでC評価ということですね。

**(事務局)**

- ・ 先ほどの虐待件数の関係、確認をしましたのでお伝えします。

- ・ 昨年12月に令和3年度分を記者発表しております。要介護施設従事者の虐待は、通報、虐待件数とも増えている状況です。市町村への通報の件数が、令和2年度は173件に対して、令和3年度は201件。そのうち虐待と認定されたのは、令和2年度は62件、令和3年度は66件で若干増えております。養護者等の虐待は、通報件数が令和2年度は2,221件に対し、令和3年度は2,596件。このうち、虐待件数が令和2年度は909件だったのが、令和3年度は813件となっております。
- ・ 通報件数が増えているのですが、少し疑わしいことがあると警察に通報することが多いと聞いておりました、通報件数はかなり増えていますが、虐待に至っていた件数はむしろ減っていたというのが養護者による虐待の状況です。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。資料2-2は数値目標実績ですが、進捗に課題があるというのが、全部で7つあります。

**(事務局)**

- ・ ほぼ、コロナの影響で研修等が開催できなかったため低評価となったものになります。

**(橋本部会長)**

- ・ 一般論だけれども、コロナを経験して研修をオンラインでやるということはかなり早めにやっていたと思うのだけれども、オンラインでの研修は現場で試みられているのですか。

**(事務局)**

- ・ 例えば、講演型の研修の場合、オンラインを活用しております。また、対面による研修が効果的と考えられるものについても、コロナの影響で研修実施が大きく制限される状況でしたので、各事業所管課、これに対応した研修方法を検討していると聞いております。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。横浜市はどうでしょうか。オンラインでの研修は進んでいるのだと思いますが。

**(川添委員)**

- ・ 横浜市では、コロナが長引いているということで、オンラインで効果的な研修を行うということを試行錯誤しておりました。その中で、介護施設、事業所の方、特に小規模な在宅系サービスの事業所ですとか、認知症グループホームに関しては、オンラインでやることで移動時間を削減できますし、事業所にいながら複数名で参加できるというメリットがありますので、在宅系サービスの事業所には非常に好評いただいているとともに、参加者数についても研修によりますけれども、伸びているものもあります。
- ・ コロナが落ち着いてきても、事業所の皆さんが参加しやすいメリットがありますので、どれくらいの割合になるかわかりませんが、オンラインによる研修を続けていくことになるかと思えます。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。横浜市は人材も豊富で、そういった研修を組み立てられるけど、小さな自治体だとなかなかそういうものがないとすれば、県全体でどう対処していくのかということは考えないといけないのですが、いかがでしょうか。

**(黒木副部長)**

- ・ 研修や委員会の開催は、全体の評価の中で、特に受益者サイドの評価で、住民に直接関係するものと、そうではないものがあると見ていて思いました。
- ・ 2-1の資料でもそうなのですが、評価項目が多いものと、そうではないものが分かれています。おそらく、直接的に住民に関係があるものは、設備計画であったり、ロボットの導入も関係があったりすると思うのですが、そうでないものと同列に評価してしまっているのかなという疑問があって、もっと、ウエイトを上げるものと下げるものを分けてもいいのではと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

**(事務局)**

- ・ おっしゃるとおりとは思いますが、今の方向性としては、できるだけ数値化をしてその評価をという形ですので、そこは悩ましいところではあります。

**(黒木副部長)**

- ・ 数値化するのはいいと思いますが、施策ごとの評価にどう反映させるかのプロセスで、例えば、研修会を開催しなかったと即座にアウトカムに咄嗟に影響があるかということ、そうではない気がするので、事情があるのであれば緩和措置を設けるとか。ちょっと下の方の評価に引きずられている部分がありますので、実際に住民に影響を与える事業なのかどうか、アウトカムに引っ張られる事業なのかどうかという観点で見たときに、本当に評価として正しいのか。ざっと見た感じだと評価はこんなものかなとは思いますが、そういう見方で見直してもいいのかなと思います。

**(橋本部長)**

- ・ そのあたり、ほかの委員の皆さん、どうでしょうか。
- ・ 事業の重みづけみたいなものをパラメーターとして持って総合的な評価をしていこうというプロセスはありだと思うのですが、その役割は我々専門家かな、という気もしています。
- ・ 我々が専門的な認識に基づいて、それぞれの施策のパラメーターを決めていく。指標がいくつありますかけれども、そういったことをやらなくてはいけないと思う一方、黒木先生が指摘されたことは皆さん頭にあって、県の方もそう考えていると思います。
- ・ 今回の評価は悪くはないと思いますが、そういったことを注意しようというのが黒木先生の本旨だと思います。

**(黒木副部長)**

- ・ 集合的な施策の評価を作るときに、下の評価にあまり行き過ぎないように注意する必要があるかなと思います。C評価をつけたものをざっと見てみたのですが、住民に直接影響があるものであれば少し施策評価を下げた方がいいと思いますけれども、あまり影響がない軽微なものであれば上げてもいいのではないかと思います。ただ、全体の評価を見たところそういう風にはなっていたので、そういった自己評価をされたのかなと思っています。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。ほか、ご意見いかがでしょうか。
- ・ 鶴山委員、別の観点で構いませんので、評価にご意見があれば伺いたいのですが。

**(鶴山委員)**

- ・ 住民主体づくりという、なかなか数では表せないものを推進する立場ではありますけれども、人口減少社会ということで評価というよりも方向性になってくるかもしれませんが、悩ましいところを申し上げたいと思います。
- ・ これから人口減少社会、共生社会という動きの中で、住民参加というのはどの事業でも重要になってくるであろうというところで、介護予防も含めて事業を進めていることかと思いますが、計画そのものに住民の声がどれだけ反映しているかどうかというのが大事なことになってくるのかなと思っております。事業の組み立てということだけではなく、そのプロセスの中で住民の声をどれだけ反映していけるのかどうかというあたりが、何かできないのかなと思ってるところです。色々な事業、専門職によるサービスの提供を含めてなのですが、住民のインフォーマルなサービスと連携していけるのかどうかという点を今後、どのように反映していけるのかという点も大切ではないかと思っています。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。今のお話に対して、事務局は何かありますか。

**(事務局)**

- ・ 住民の声というところは、もともとの県の計画は市町村支援計画という性質のものであり、県民の声を直接、というのはなかなか難しい部分があります。
- ・ もちろん、計画の策定にあたりましては、様々な団体に研修実施などでお力をお借りしているところがございますので、できるだけ皆さんの現場の肌感覚といったものを取り入れる必要があると考えています。
- ・ 来年度が第9期計画の策定期間ですので、計画策定に至る前の段階で、普段の会話等の中からお話をいただいて、県が何をできるのかを考えていければと思っております。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。

**(事務局)**

- ・ 数値目標ですが、県の計画は等しく数値目標を定める形となっておりますが、数字で見えないところは確かにございまして、事業を行うにあたってアンケートを取るなど声を聞きながら、それを活かしていくということをしっかりやっていく必要があるのかなと思っております。そういった事業の質を担保するような取組はしっかりやっていきたいと考えております。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。国がやっている色々な調査等の中で、東京の江東区で高齢者のサンプリング調査ですけれども、全体的な幸福感ですとか、主観的幸福感、曖昧ではありますけれども学問的にはそれなりに蓄積があるものを測っています。
- ・ それで、計画の中で、確か47%くらいの高齢者が幸福感を感じている。それを半分以上にしよう。そのアンケートの中に例えば、人との関わり合いがあるだとか、周囲に支えられている実感があるとか、少し表現は違うかもしれませんが、そのような調査をしています。
- ・ これは、事業をいくつやったという行政的な目標とちょっと違って、住民は幸せなのかというもので、そういった測り方もひとつあるのではないかと思います。

**(鳥居委員)**

- ・ 今、橋本先生が言われた評価分析は、全ての市町村が見ていると思います。そういったものを見ながら、じゃあそこからの地域分析をどうしようかとか、すごく参考にしています。

- ・ 話が少し戻って申し訳ないのですが、今回の全体を通して、資料2-1や2-2を見ても、県の立場としてC評価としたいいくつかの中で、今、橋本先生がおっしゃっていた地域分析のことなどは、県が開催した1回の研修かもしれませんが、その研修によって市区町村がそこからさらに分析をしようとか、今、介護と予防の一体的も進んでおりますので、そこと組み合わせて、さらに分析を進めようという動きは、もちろんあります。
- ・ また、虐待防止も研修の回数は少なかったかもしれませんが、我々も現場で虐待が起きますので、その中で我々が地域のケアマネージャーとか事業所の方に研修をしたり、広げているということは確実に行っていきますので、県の研修開催回数が少なかったとか、参加人数が少なかったとかでC評価とするのではなく、B評価でいいのではと思うところはあります。
- ・ 県の立場からすると十分ではなかったかもしれませんが、地域でも色々なものを見ながら取り組みを進めているのが現状としてあります。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。先ほど、事務局が言ったことと一緒に、県の立場で何ができるかということを計画の中でやっているの、先ほど、黒木先生が言われたことと関連もするのですけれども、現場は研修をやれば、そこから波及した形で何かやっていくというのは、鳥居委員の話からわかりましたので、県はもう少し上向きに評価してもいいかもしれません。県は研修後の参加者アンケートはやっていないのですか。

**(事務局)**

- ・ 直後にはアンケートを行いますが、その後の効果を追いかけることは、あまりないのではと思います。

**(橋本部会長)**

- ・ 教育とか研修は、直後のアンケートと、その後どうやったかということで次の計画を立てるとというのが一般的なやり方なので、そのあたりは気にした方がよいかもしれませんね。

**(黒木副部会長)**

- ・ 評価のところに関連してよろしいでしょうか。全体として評価を見ているとアウトプット評価が多いように思います。アウトカム評価もあるのですけれども、最近、各地で申し上げるときに、やはりできるだけ、国の評価もそうなのですが、アウトカム評価に移行しているところがあると思っていて、県がやることなのでアウトプットでもいいのかなと思いつつも、もし、来年度以降、目標値を変えたり議論をする機会があるのであれば、アウトカムとアウトプットの関係の観点から、全体的にどこまでできそうかというのは県の中で検討してもいいのではと思います。
- ・ 地域の中で役に立っているという声も重要だと思うので、そういうのがベースとしてある事業だといいいのですけれども、そうではない事業もあるかもしれませんし、そういう事業だとやめてしまった方がいいのではという判断もあるかと思っておりますので、どこまでやるのかを含めて、検討してもいいのではと思いました。

**(橋本部会長)**

- ・ ありがとうございます。行政計画の評価という意味での根本的な問題かと思っております。
- ・ 予算があって、予算に対する事業数があって、実際のアウトカムとどれだけの関係があるのかというのは昔から言われている話です。限界があるとは思いますが、何かひとつブレイクスルーできるものはないかなと考えています。



**(黒木副部長)**

- ・ 私、福井県などでも支援をしていて、ウェルビーイングとか高齢者のこととか、定点で調査票モニターをやったりとか評価を上手くやっていく仕組みみたいなものを作り始めているので、そういう方向性でもいいのかなという気がします。
- ・ ただ、いずれにせよ全体は無理なので、スポット的にはなるのですが、そこは検討してもいいのではと思います。

**(橋本部長)**

- ・ ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

**(橋本部長)**

- ・ よろしいでしょうか。では、今後の話なのですけれども、今いくつかご意見をいただいた中で大きな変更はなくて、こうしたことに配慮したらどうか、という話だったかと思えます。事務局で修正案を作成します。
- ・ ただ、大きな修正はなさそうですが、それを皆さんにご提示させていただく、もしくは私と事務局とで判断させていただくという形もできるかなと思うのですが、事務局はどうですか。

**(事務局)**

- ・ 総合評価(案)のところの皆様のご意見を反映できればと思っていますが、「もしここが」というのがありましたら、1週間くらいの間にご意見をいただき、それを踏まえて、また部会長と調整をさせていただければと思います。

**(橋本部長)**

- ・ では、総合評価(案)のところ今の議論を盛り込むようであれば、1週間くらいでご意見をいただいて、もしないようであれば、私と事務局の方で、今回の議論を基に、多少修正をしたいと思えます。

○ **事務局からの報告事項**

**(事務局)**

<事務局から「介護保険事業(支援)計画に記載した『自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標』について」、「介護保険事業支援計画に記載した、市町村が行う自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組の支援についての目標(令和3年度)に対する自己評価結果」、「介護保険制度見直しに関する意見書(概要)」について説明>

**(橋本部長)**

- ・ 報告事項でございますが、ご意見、ご質問ありますでしょうか。

**(橋本部長)**

- ・ よろしいでしょうか。そのほか、全体を通して何かご意見等ありますでしょうか。

**(橋本部長)**

- ・ それでは、部会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

以上